

標 題 : Immunotherapy with an Extract of *Olea europaea* Quantified in Mass Unit
Evaluation of Safety and Efficacy after One Year of Treatment
単位質量で定量したオリーブの抽出物による免疫療法
1年間治療後の安全性および有効性の評価

著 者 : P. González, et al. (スペイン Unidad de Alergia,
Hospital General Ciudad de Jaén)

掲 載 誌 : J. Invest. Allergol. Clin. Immunol. 12(4): 263-271 (2002)

要 旨 : オリーブ花粉への感作がハエン(Jaén)の地域(スペイン南部)で、鼻結膜炎(RC)および気管支ぜん息(BA)をしばしば引起し、そこでは花粉の季節中に(5月と6月)このアレルゲンが大気中で約 7000g/m³の値に達して高い罹患率をもたらす。草の花粉によって引起されるアレルギー性の RC および BA で特定免疫療法(SIT)が非常に有効と証明されている。生物学的に標準化されたオリーブ抽出物の入手と質量単位で定量されたその主なアレルゲンを考えて、オリーブだけ感作する鼻炎および/またはぜん息の患者群でこの抽出物による特定免疫療法を研究すると、我々は決断した。特定免疫療法を与えた群を受けてない対照群を比較して、許容値、安全性および有効性を、我々は研究した。減感作投与量のオリーブ抽出物を季節前に投与して、従来の治療での投与量より 3.8 倍高い維持投与量を確認した。患者の 83%は提案された最大投与量 75BU に達し、この値は 45 μg のオリーブ抽出物 1 に等しく、全身反応の 0.8%の割合であった。皮膚反応性(p<0.001)および気管支反応性(p<0.001)の有意な低下が治療群で観察されたが、対照群にはなかった。また特定 IgE の減少および IgG₁ および IgG₄ の増加が特定免疫療法をした患者群で見出された。臨床評価に関して、対照群でなく治療群は鼻症状(p<0.05)および気管支症状(p<0.05)の両方に明らかに統計的に有意な改善を示し、さらに抗ヒスタミン剤(p<0.05)およびβ₂-作動薬(p<0.01)の摂取が有意に減少した。結論として、オリーブ抽出物による特定免疫療法はこのアレルゲンによって引起されるぜん息および鼻炎の治療として安全で有効であると証明された。

キーワード : ぜん息、臨床評価、有効性、免疫療法、単位質量、オリーブ(*Olea europaea*)、安全性
